

早掘りタケノコの選別をする小野部会長（左）と佐藤さん



# 早掘りタケノコ出荷 ブランド名「金の筍」 JA 延岡

県内有数のタケノコの生産地、延岡市南方地区のJA延岡高野選果場で23日、早掘りタケノコの

初出荷が行われた。早掘りタケノコは、JA延岡たけこの部会（小野昭治 部会長・24人）が細見町

や舞野町、行藤町の約11ヘクタールで、最初の出荷作業を籽で栽培。毎年、天皇誕生日のこの日に合わせ、今年も表年

のため豊作が期待されて



化粧箱に詰められた早掘りタケノコを手にする小野部会長（左）と山本照弘組会長

おり、この日は2戸の生産者から合わせて68・5キが持ち込まれた。

昨年からブランド名を「早掘りたけこの」から「金の筍（たけこの）」に改称。また、バスク化構想を進める市の補助を受けて、黒地に金の文字をあしらった化粧箱とハンフレット、のぼり旗を制作してイメージを一新、JA延岡のブランド野菜として力を入れている。

JA職員佐藤彰さん（39）が、大きさや傷の有無を見ながら一本ずつ重さを量って選別。等級とサイズごとに分けられたタケノコは、2キずつ数量を合わせて箱詰めされていった。

早掘りタケノコは、地表に頭を出す前に収穫されるために軟らかく、そのまま焼くほか、刺し身でも食べられる。この季節、ひと足早い春の味覚として、ほとんどが関東方面に出荷されるほか、ふるさと納税の返礼品にも人気だという。

年内の出荷はこの日のみで、2回目の出荷作業は来年1月16日に行われる。小野部会長（70）は「平均して2500キほどで、中には5000〜6000キの大きな物もあります。今夏の台風で親竹の根が揺らされた影響が懸念されますが、部会のみんなで頑張って、昨年の3倍という出荷目標を達成したい」と意気込みを話していた。